

# 火災・救急・救助概要

## 平成28年



宝塚市消防本部



# 目 次

## I 火災の概要

1	火災の発生状況	1
2	火災覚知種別の状況	4
3	火災の覚知から現場到着までの所要時間	4
4	初期消火状況	5
5	署所別火災発生状況	5
6	月別・時間別火災発生状況	6
7	出火原因	7
8	火災発生件数の推移	8
9	その他の出動状況	8
10	防災出動状況	9

## II 救急の概要

1	救急事故種別出場状況	10
2	傷病程度別搬送状況	11
3	署所別出場状況	12
4	医療機関別搬送状況	13
5	年齢区分別搬送状況	14
6	月別・曜日別出場状況	15
7	救急出場件数の推移	16

## III 救助の概要

1	救助事故種別出場状況	17
2	発生場所別活動件数・救助人員状況	18
3	建物内生存者確認による出動状況	19



# I 火災の概要

## 1 火災の発生状況

### (1) 火災件数

平成28年中の火災の発生状況は表-1・2・3のとおりで、総件数は39件発生し、前年と比べて22件増加しています。

火災種別ごとでは、建物火災は17件で前年と比べ7件の増加、林野火災は3件で前年と比べ3件の増加、車両火災は8件で前年と比べて5件増加、その他の火災は11件で前年と比べて7件増加しています。

### (2) 焼損棟数・面積等

焼損棟数は、25棟で前年より13棟増加しています。全焼棟数は5棟で前年比4棟増加、半焼棟数は2棟で1棟増加、部分焼棟数は7棟で前年より6棟の増加、ぼや棟数は11棟で2棟増加しています。

焼損面積等については、建物焼損面積は466平方メートルで262平方メートル増加し、建物焼損表面積は80平方メートルで1平方メートル減少しています。

林野火災は3件発生し、前年より52a増加しています。車両火災の焼損台数は6台で前年より1台増加しています。

### (3) 死傷者

平成28年中は死者2名、負傷者10名が発生しています。(前年死者0人、負傷者0人)

### (4) その他

建物火災17件中、住宅用火災警報器の設置義務がある建物は13件、その内、設置有りは6件、設置なしは6件、不明は1件でした。

表-1

### 【火災種別件数】

火災総件数39件

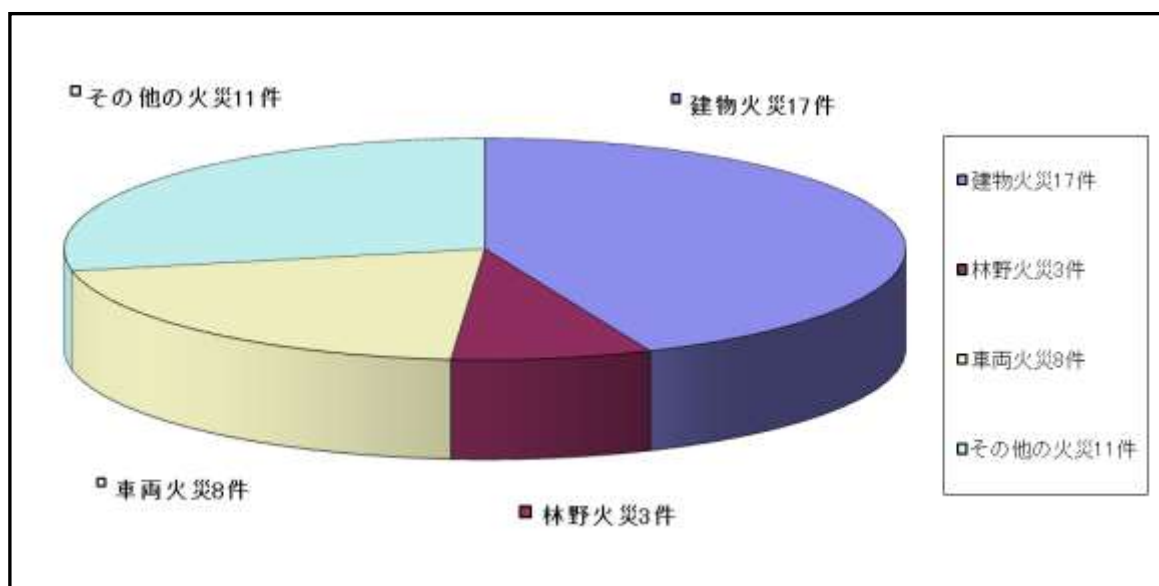


表-2

## 【前年との対比1】

区 分		単 位	平成28年 (A)	平成27年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
出 火 件 数			39	17	22
火 災 種 別	建 物	件	17	10	7
	林 野		3	0	3
	車 両		8	3	5
	そ の 他		11	4	7
焼 損 棟 数	合 計	棟	25	12	13
	全 焼		5	1	4
	半 焼		2	1	1
	部 分 焼		7	1	6
	ぼ や		11	9	2
爆 発 損 害 棟 数			0	0	0
焼 損 面 積	建 物	m <sup>2</sup>	466	204	262
	建 物 表 面 積	m <sup>2</sup>	80	81	△ 1
	林 野	a	52	0	52
	車 両	台	6	5	1
り 災 世 帯 数	合 計	世 帯	26	9	17
	全 損		8	2	6
	半 損		1	1	0
	小 損		17	6	11
り 災 人 員		人	63	17	46

※ 平成28年数値は概算値を含んでおり、確定値ではありません。

※ △は減少を示す。

表-3

## 【前年との対比2】

区 分		単 位	平 成 2 8 年 (A)	平 成 2 7 年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
死 者			2	0	2
負 傷 者	3 0 日 死 者	人	0	0	0
	重 症		1	0	1
	中 等 症		7	0	7
	軽 症		2	0	2
出 動 車 両	合 計	台	267	94	173
	消 防 署		225	78	147
	消 防 団		42	16	26
出 動 人 員	合 計	人	1,056	379	677
	消 防 署		833	285	548
	消 防 団		223	94	129
建 物 火 災	建 物 焼 損 面 積	m <sup>2</sup>	27.4	20.7	6.7
	焼 損 棟 数	棟	1.4	1.2	0.2
一 件 当 たり	り 災 世 帯	世帯	0.9	0.9	0.0
	り 災 人 員	人	3.6	1.6	2.0
林 野 火 災 一 件 当 たり	焼 損 面 積	a	17.3	0.0	17.3
出 火 率		件	1.7	0.7	1.0

※ 火災により負傷した後48時間以内に死亡したものは火災による死者とし、負傷者のうちで火災に起因する原因により48時間を経過して30日以内に死亡した者を「30日死者」とする。

※ 出火率は人口1万人当たりの出火件数をいう。

$$\text{出火率(件)} = \text{出火件数} \div \text{人口} \times 10,000$$

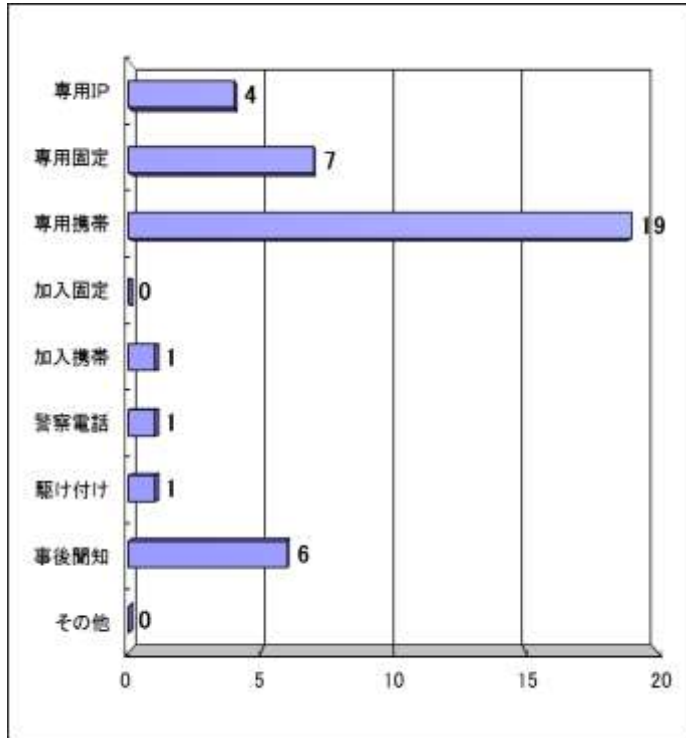
※ 平成28年数値は概算値を含んでおり、確定値ではありません。

## 2 火災覚知種別の状況

平成28年中に火災を覚知する種別で最も多かったのは、携帯電話からの119番通報で19件でした。

表-4

【火災覚知種別状況】



- ・専用IP⇒固定電話（NTT加入電話を除く）からの119番通報
- ・専用固定⇒固定電話（NTT加入電話）からの119番通報
- ・専用携帯⇒携帯電話からの119番通報
- ・加入固定⇒固定電話からの消防本部固定局への通報
- ・加入携帯⇒携帯電話からの消防本部固定局への通報
- ・警察電話⇒警察専用回線からの通報
- ・駆け付け⇒消防機関へ電話以外の方法で直接通報されたもの
- ・事後聞知⇒火災が消えた後に通報されたもの
- ・その他⇒上記以外の通報

## 3 火災の覚知から現場到着までの所要時間

平成28年中に発生した39件の火災から、事後聞知の火災6件を除いた33件の火災について、119番通報を受信してから、出動、現場到着までに要した時間の平均値は下表のとおりです。

表-5

【所要時間の平均値】

区分	覚知～出動	出動～現着	覚知～現着
全市域	1分03秒	4分27秒	5分29秒

※ 事後聞知を除く。



#### 4 初期消火状況

平成28年中に発生した39件の火災のうち、初期消火が行われたのは21件で、初期消火に成功した件数は11件でした。

表-6 【初期消火の実施件数】

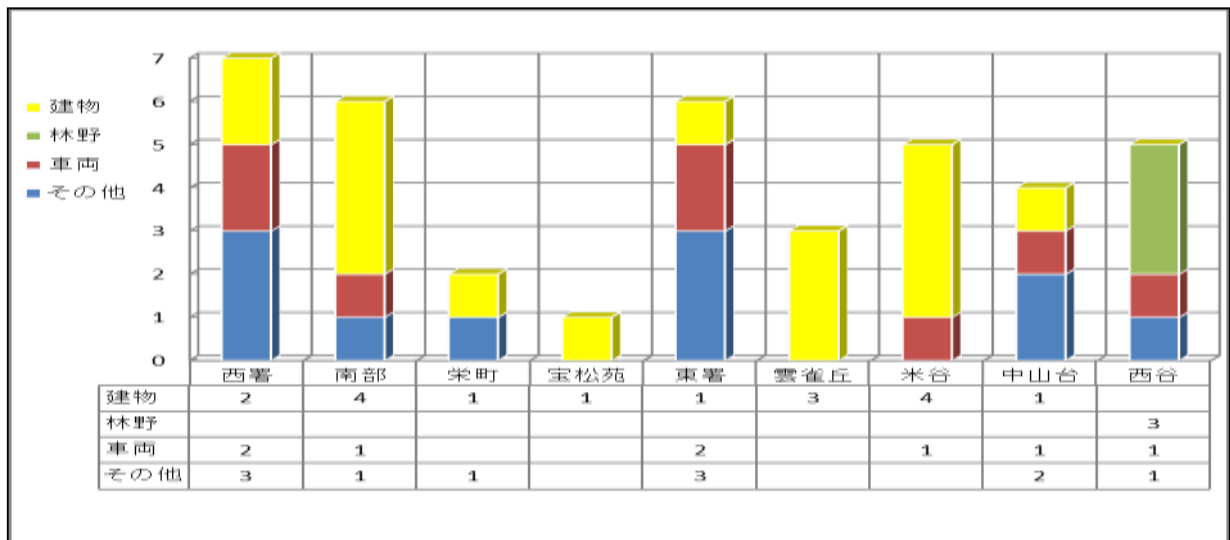
火災種別 【件数】	合計 【39件】	建物 【17件】	林野 【3件】	車両 【8件】	その他 【11件】
消火種別					
粉末消火器	3 (1)			1	2 (1)
水道、浴槽、汲み置き等の 水をかけた	15 (8)	5 (3)	2	4 (4)	4 (1)
寝具、衣類等をかけた	1 (1)	1 (1)			
もみ消した	1 (1)				1 (1)
その他	1	1			
合計	21 (11)	7 (4)	2 0	5 (4)	7 (3)

※（ ）内の数字は初期消火に成功した件数を示す。

#### 5 署所別火災発生状況

各署所の管轄、受持地区内で発生した火災件数は表-7のとおりで、西署が最も多く7件発生しています。

表-7 【署所別火災発生件数】



## 6 月別・時間別火災発生状況

月別の火災発生状況は、3月が11件と最も多く、次いで1月が7件と多く発生しています。また、11月は火災の発生がありませんでした。

時間別発生状況では、15時から21時の間に放火火災の60%以上が発生しています。

表-8

【月別・時間別火災発生件数】

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
建 物	5		4			2	1	1	1	2		1	17	
林 野			2						1				3	
車 両			1	2		2	1	1				1	8	
その他	2	1	4	1	2			1					11	
計	7	1	11	3	2	4	2	3	2	2	0	2	39	
0 ~ 1													0	1(1)
1 ~ 2													0	
2 ~ 3			1(1)										1(1)	
3 ~ 4	1		1										2	4(1)
4 ~ 5	1(1)		1										2(1)	
5 ~ 6													0	
6 ~ 7													0	2(1)
7 ~ 8	1(1)									1			2(1)	
8 ~ 9													0	
9 ~ 10	1												1	2
10 ~ 11	1												1	
11 ~ 12													0	
12 ~ 13			3						1				4	10
13 ~ 14			1	1								1	3	
14 ~ 15			2		1								3	
15 ~ 16			1(1)					1	1(1)	1			4(2)	11(3)
16 ~ 17				1				1(1)				1	3(1)	
17 ~ 18	1		1		1	1							4	
18 ~ 19													0	7(2)
19 ~ 20	1					2(1)							3(1)	
20 ~ 21		1(1)		1			1	1					4(1)	
21 ~ 22													0	2
22 ~ 23							1						1	
23 ~ 24						1							1	
不 明													0	

※ ( ) 内の数字は、出火原因が放火の件数を示す。

## 7 出火原因

出火原因別では、その他が9件、次いで放火・放火の疑いが8件と多く、たき火6件、電気機器・装置3件となっています。電気・配線関係の火災が合計7件と昨年より5件増え、たき火は昨年0件から6件増え、林野火災3件の出火原因は全てたき火となっています。

表-9

【出火原因別火災件数】

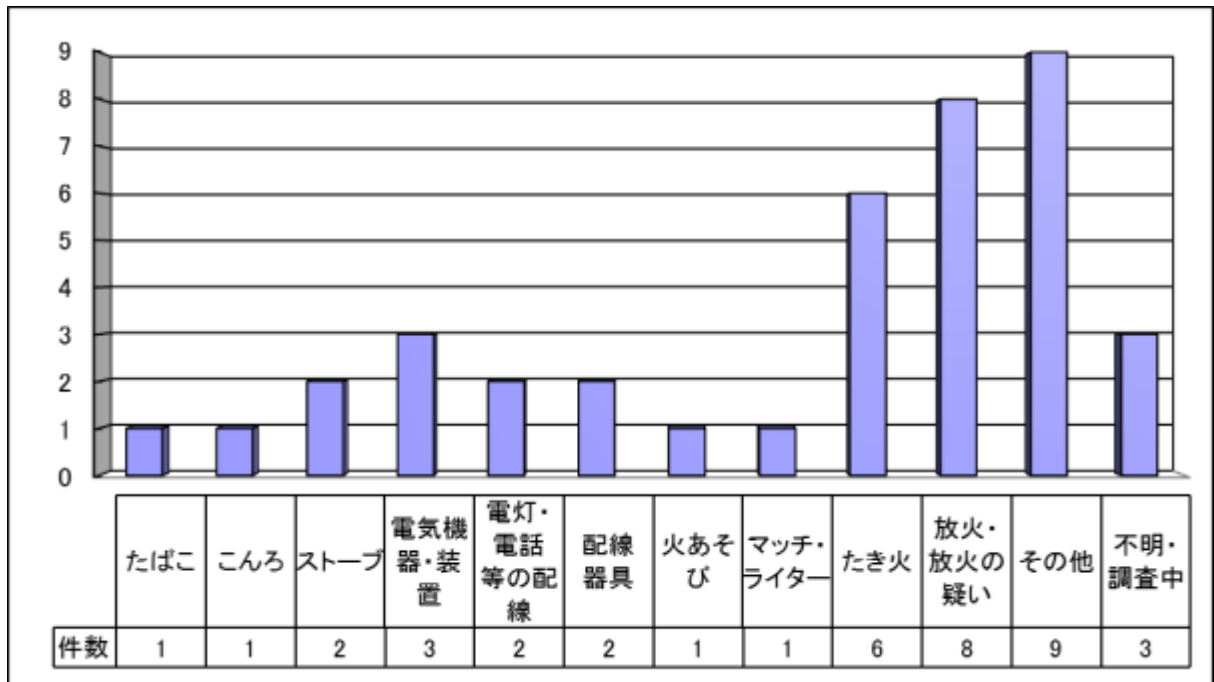


表-10

【火災種別毎の原因件数】

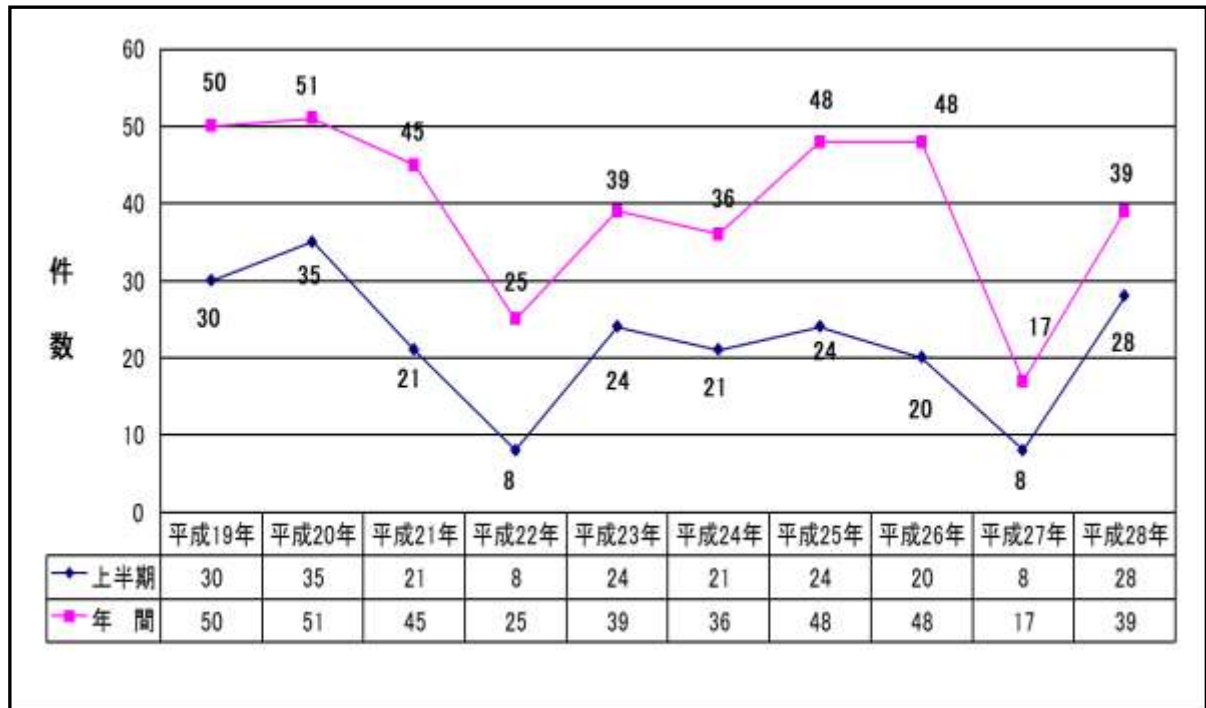
出火原因	合計	建物火災	林野火災	車両火災	その他の火災
たばこ	1	1			
こんろ	1	1			
ストーブ	2	2			
電気機器・装置	3	1		2	
電灯・電話等の配線	2	1			1
配線器具	2	2			
火あそび	1				1
マッチ・ライター	1			1	
たき火	6	1	3		2
放火・放火の疑い	8	2			6
その他	9	3		5	1
不明・調査中	3	3			
合計	39	17	3	8	11

## 8 火災発生件数の推移（過去10年間）

過去10年間の発生推移をみると、年間件数平均値は39.8件、年間件数50件を超えたのが平成19年から平成20年までであり、平成27年は過去最少となる17件でした。

表-11

【火災発生件数の推移（過去10年間）】



## 9 その他の出動状況

火災以外の災害等の出動状況は、表-12のとおり719件（前年814件）出場し、これは1日に約2.0件の割合で出動したことになります。

表-12

【その他の災害出動件数】

区分	合計	火災に至らず	誤報 誤認 虚報	警戒	油流出	ガス 漏洩	特定 救急	他市 応援 (一般)	他市 応援 (高速)	捜索	その他
出動件数	719	23	15	225	42	3	360	20	18	2	11
出動台数	913	98	108	240	43	3	362	22	23	2	12
出動人員	3,672	380	400	972	175	12	1,492	86	102	7	46

※ 特定救急は、救急現場に消防車も同時出動することをいう。

## 10 防災出動状況

風雨等による災害の出動状況は、表-13のとおり62件（前年71件）出場し、前年より9件減少しています。

表-13

【 防 災 出 動 件 数 】

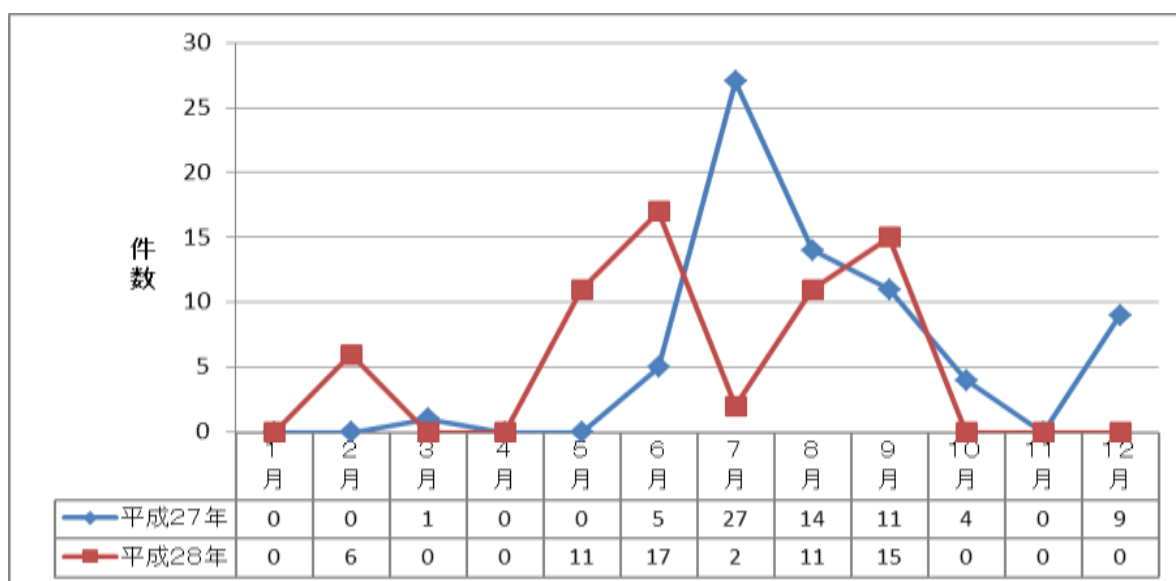
区 分		平成28年 (A)	平成27年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
風水害	出 動 件 数	0	16	△ 16
	出 動 台 数	0	24	△ 24
	出 動 人 員	0	80	△ 80
警戒巡視	出 動 件 数	62	55	7
	出 動 台 数	62	55	7
	出 動 人 員	227	209	18
合計	出 動 件 数	62	71	△ 9
	出 動 台 数	62	79	△ 17
	出 動 人 員	227	289	△ 62

※ 警戒巡視とは、時間雨量又は連続雨量が規定値を超えた場合に、市内の水害危険予想箇所の巡視を行うことをいい、風水害とは、風雨等に伴う出動で、警戒巡視以外の出動のことという。

※ △は減少を示す。

表-14

【 月 別 防 災 出 動 件 数 】



## II 救急の概要

### 1 救急事故種別出場状況

平成28年中の救急出場件数は10,629件で、前年より119件減少し、市内で1日平均29.1件の割合で救急出動したことになります。事故種別では、急病、一般負傷、交通事故が全体の89.1%を占め、特に急病は、64.2%を占めています。

表-1

【前年との対比1】

区 分	平成28年 A	平成27年 B	増 減 A - B = C	増減率% (C/B)×100
出 場 件 数	10,629	10,748	△ 119	△ 1.1
傷 病 者 搬 送 件 数	9,581	9,507	74	0.8
不 搬 送 件 数	1,048	1,241	△ 193	△ 15.6
火 災	24	10	14	△ 140.0
自 然 災 害	0	0	0	0
水 難	1	4	△ 3	△ 75.0
交 通	755	817	△ 62	△ 7.6
労 働 災 害	54	67	△ 13	△ 19.4
運 動 競 技	64	48	16	33.3
一 般 負 傷	1,891	1,974	△ 83	△ 4.2
加 害	43	50	△ 7	△ 14.0
自 損 行 為	84	91	△ 7	△ 7.7
急 病	6,829	6,776	53	0.8
転 院 搬 送	764	751	13	△ 1.7
医 師 搬 送	0	0	0	0
医 療 資 器 材	0	0	0	0
そ の 他	120	160	△ 40	△ 25.0
1 日 平 均	29.1	29.4	△ 0.3	△ 1.1
発 生 率	471.8	459.4	12.4	2.7
覚 知 ~ 現 場 到 着	7分29秒	7分24秒	5秒	1.1
覚 知 ~ 病 院 到 着	35分46秒	35分51秒	5秒	0.2

※ △は減少を示す。

※ 発生率については、人口1万人当たりとする。

(平成28年12月現在 宝塚市推計人口225,267人)

## 2 傷病程度別搬送状況

平成28年中の病院への搬送人員は9,633人で、市民23.4人に1人が救急車で運ばれたこととなります。また、死亡、重症、中等症の傷病者の割合は49.8%、入院の必要なしと診断された軽症の傷病者は4,833人で50.2%を占めています。

表-2-1

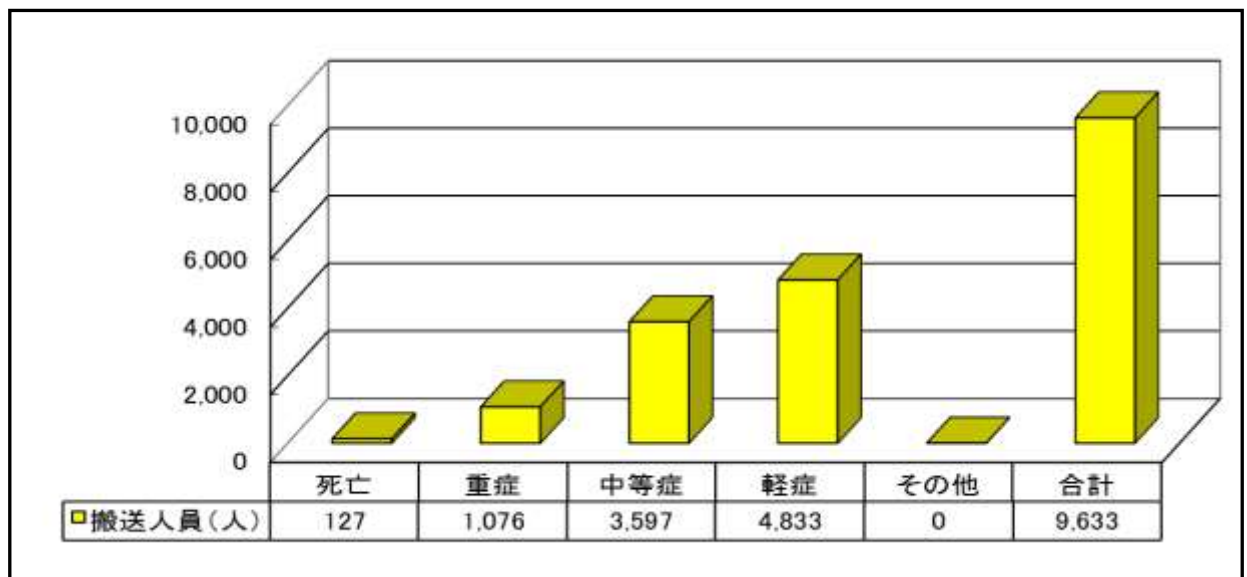
### 【前年との対比2】

区 分	平成28年 A	平成27年 B	増 減 A - B = C	増減率% (C/B)×100	傷 病 程 度					合 計
					死 亡	重 症	中 等 症	軽 症	そ の 他	
搬送人員	9,633	9,567	66	0.7	127	1,076	3,597	4,833	0	9,633
火 災	10	0	10	0	0	2	7	1	0	10
自然災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水 難	0	3	△ 3	△ 100.0	0	0	0	0	0	0
交 通	689	726	△ 37	△ 5.1	1	37	128	523	0	689
労働災害	50	62	△ 12	△ 19.4	0	9	13	28	0	50
運動競技	64	47	17	36.2	0	2	12	50	0	64
一般負傷	1,732	1,791	△ 59	△ 3.3	8	318	376	1,030	0	1,732
加 害	33	39	△ 6	△ 15.4	1	0	1	31	0	33
自損行為	56	63	△ 7	△ 11.1	9	6	23	18	0	56
急 病	6,231	6,083	148	2.4	107	513	2,542	3,069	0	6,231
そ の 他	768	753	15	2.0	1	189	495	83	0	768

※ △は、減少を示す。

表-2-2

### 【傷病程度別搬送人員】



### 3 署所別出場状況

総出動件数10,629件のうち、西消防署（南部出張所・栄町出張所含む）が7,146件（67.2%）、東消防署が（雲雀丘出張所、西谷出張所含む）3,481件（32.8%）、その他（イベント警備中）に2件出場しています。

表-3-1

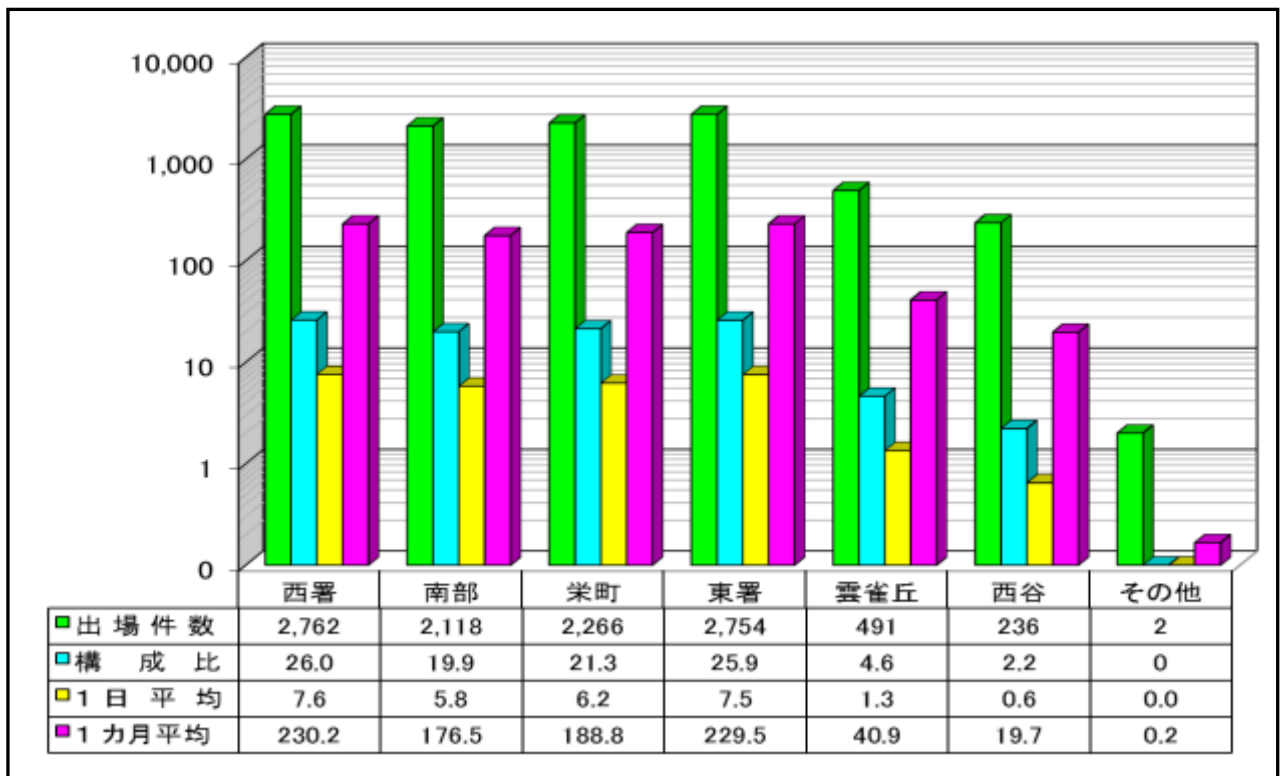
【署所別出動件数1】

区 分	合 計	西 消 防 署				東 消 防 署				その他 小 計
		小 計	本 署	南 部 出 張 所	栄 町 出 張 所	小 計	本 署	雲 雀 丘 出 張 所	西 谷 出 張 所	
出 場 件 数 (件)	10,629	7,146	2,762	2,118	2,266	3,481	2,754	491	236	2
構 成 比 (%)	100.0	67.2	25.9	20.0	21.3	32.8	26.0	4.6	2.2	0.0
1 日 平 均 (件)	29.1	19.6	7.6	5.8	6.2	9.5	7.5	1.3	0.6	0.0
1 カ 月 平 均 (件)	885.8	595.5	230.2	176.5	188.8	290.1	229.5	40.9	19.7	0.2

※ 単位未満四捨五入のため、合計等が一致しない場合があります。

表-3-2

【署所別出動件数2】





#### 4 医療機関別搬送状況

搬送状況を収容医療機関別に区分すると、搬送人員の94.4%を占める9,100人が救急告示病院に搬送され、533人がその他の医療機関に搬送されています。また、市内の救急告示病院への搬送人員は6,713人で全体の69.6%を占め、その他の医療機関を含めると6,749人となり、市内へは全体の70.0%が搬送されています。

※ その他の場所は、診療のための接骨院への搬送及び医療機関への収容目的でヘリポートへ搬送した人数をいうが、該当はありませんでした。

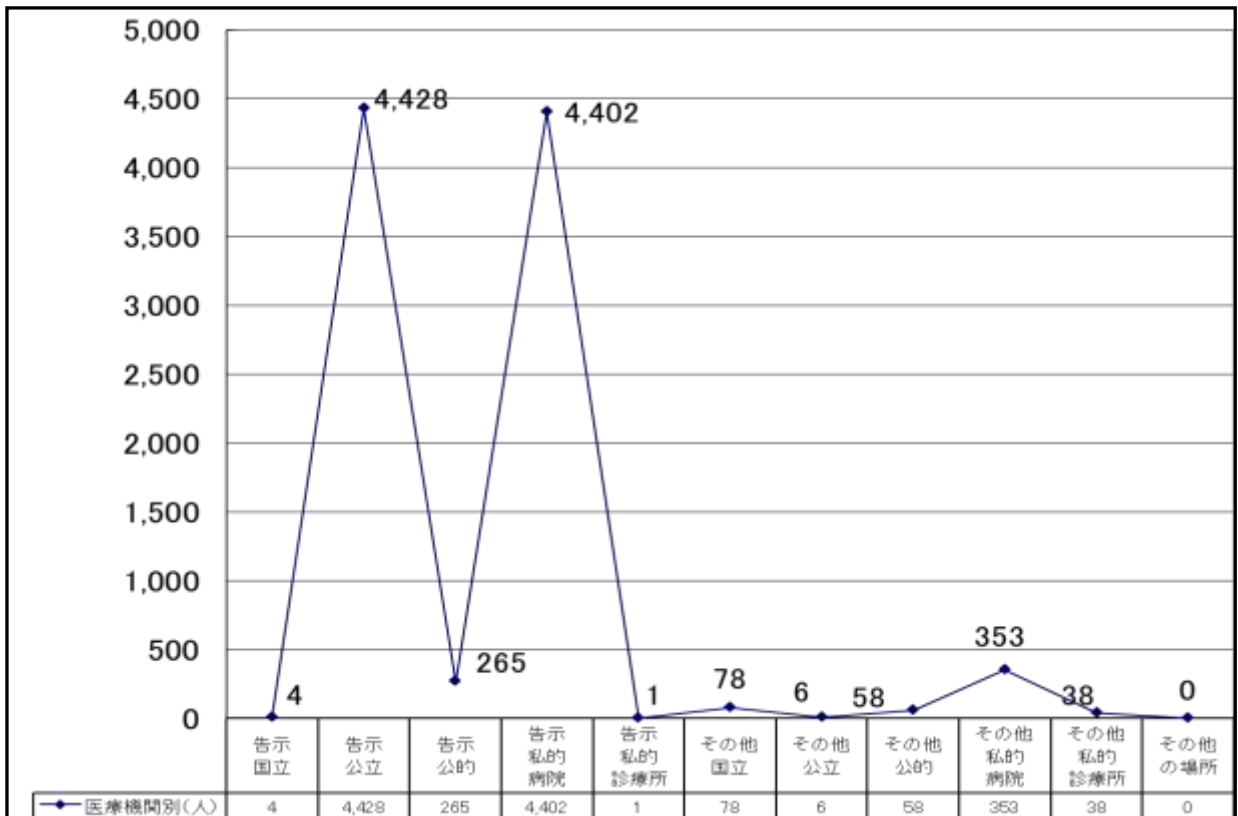
表-4-1

【医療機関別搬送状況1】

区分	救急告示医療機関						その他の医療機関						その他の場所	合計(人)
	国立	公立	公的	私的		計	国立	公立	公的	私的		計		
				病院	診療所					病院	診療所			
市内	0	3,515	0	3,198	0	6,713	0	0	0	6	30	36	0	6,749
市外	4	913	265	1,204	1	2,387	78	6	58	347	8	497	0	2,884
合計	4	4,428	265	4,402	1	9,100	78	6	58	353	38	533	0	9,633

表-4-2

【医療機関別搬送状況2】



## 5 年齢区分別搬送状況

年齢区分別にみると、高齢者5,937人(61.6%)、成人2,761人(28.7%)、少年378人(3.9%)、乳幼児501人(5.2%)、新生児56人(0.6%)となっています。

高齢者の搬送割合が高く、高齢者の急病は、4,023人で、高齢者全体の搬送のうち67.7%を占めています。また、高齢者の一般負傷についても他の年齢区分から比較すると高い値となっています。

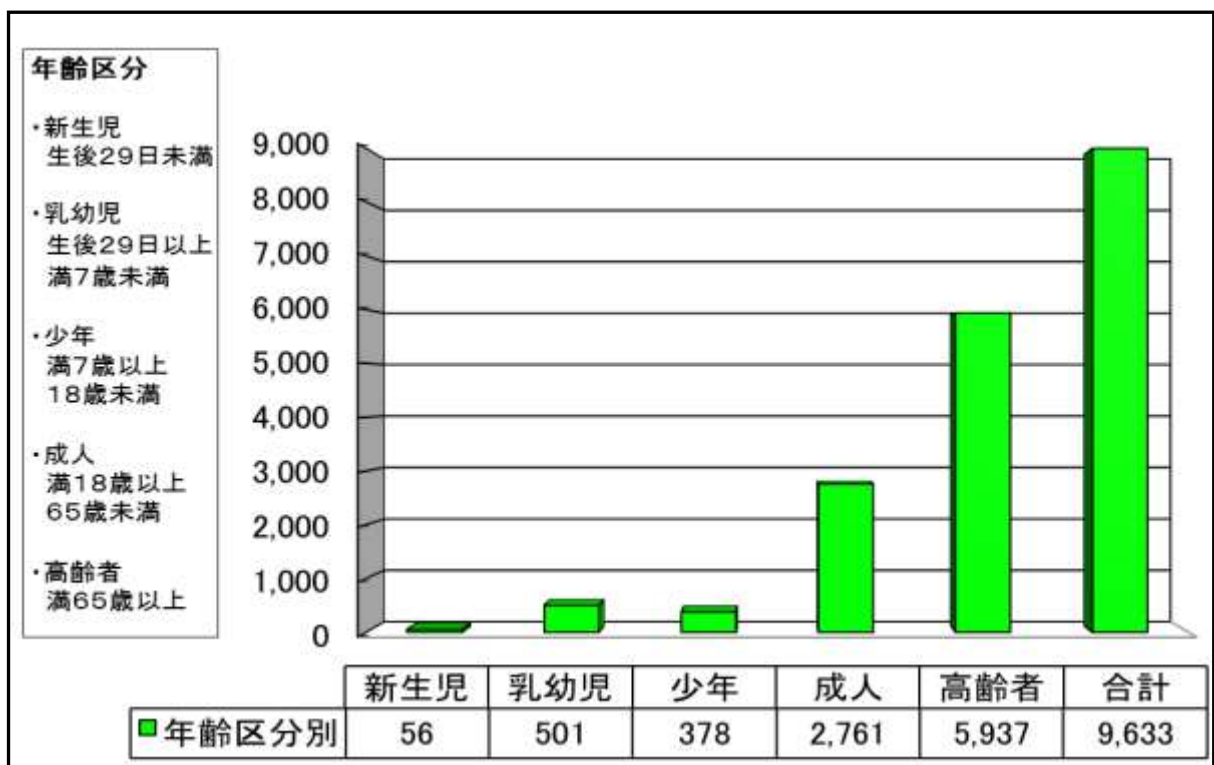
表-5-1

【年齢区分別搬送状況1】

区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	56
乳幼児	0	0	0	15	0	0	157	1	0	304	24	501
少年	0	0	0	72	1	43	72	3	3	167	17	378
成人	6	0	0	431	37	19	251	24	46	1,737	210	2,761
高齢者	4	0	0	171	12	2	1,252	5	7	4,023	461	5,937
合計	10	0	0	689	50	64	1,732	33	56	6,231	768	9,633

表-5-2

【年齢区分別搬送状況2】



## 6 月別・曜日別出場状況

月別出場件数は、12月が1,048件と最も多く、他の月は、概ね800件台から900件台で推移しています。

表-6-1

【月別出動件数】

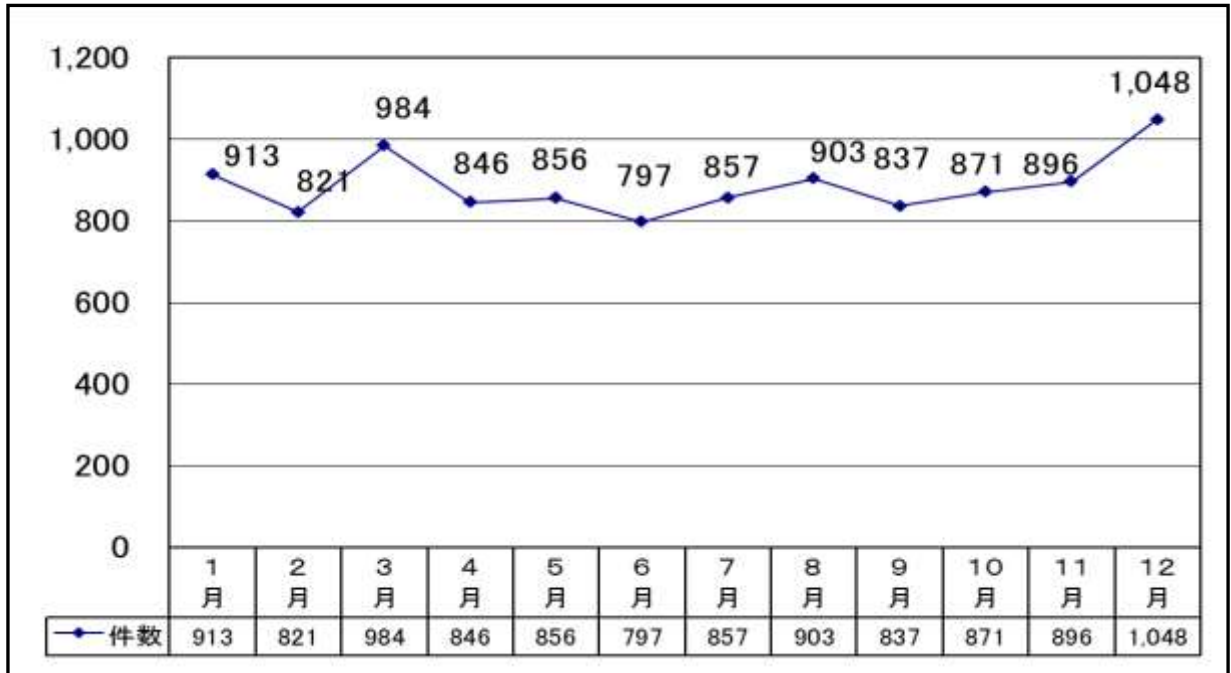
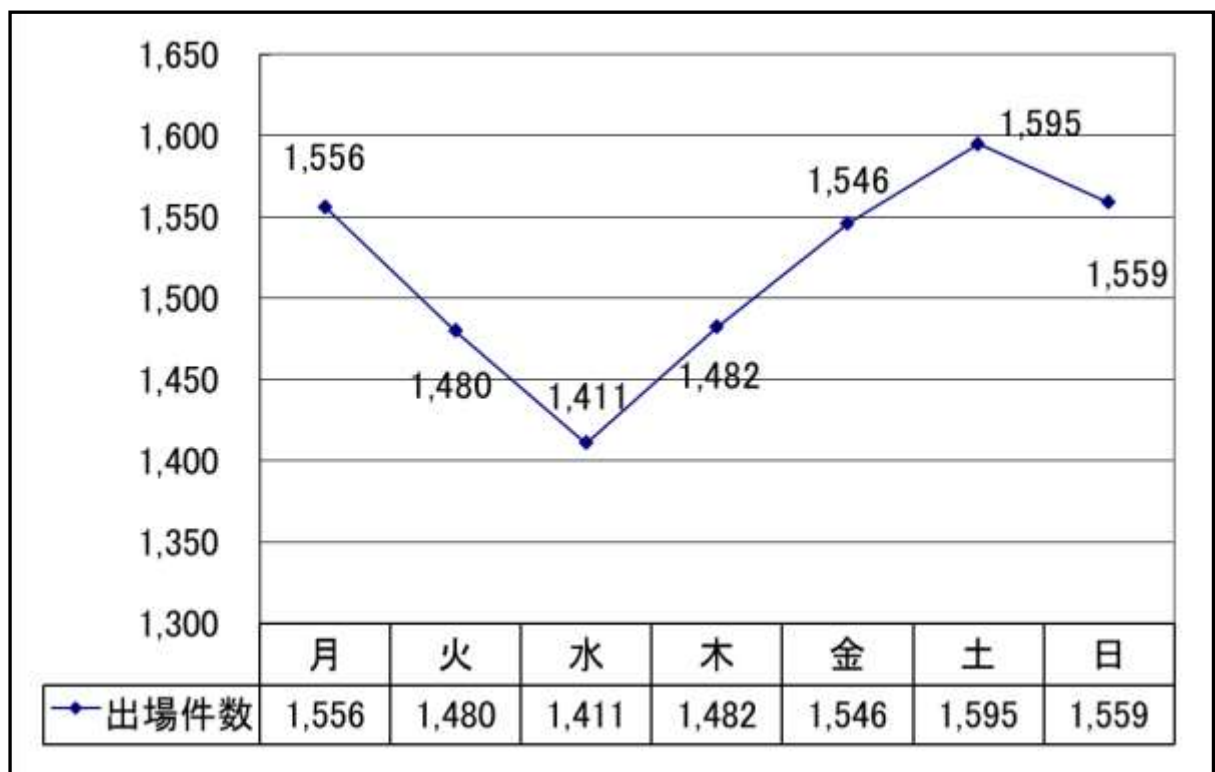


表-6-2

【曜日別出動件数】



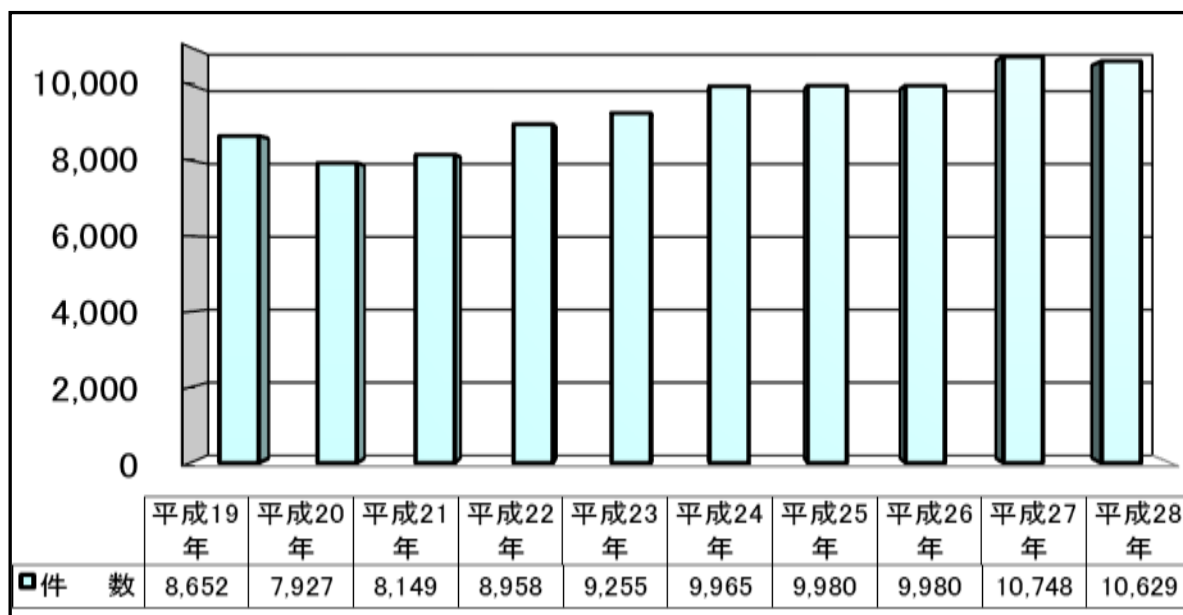
## 7 救急出場件数の推移

過去10年間で最も少なかった平成20年から平成24年の5年間で2038件の急激な増加があったが、平成24年からは9900件台で横ばい傾向で、平成25年、平成26年では同件数でした。

平成27年には急激な増加があり、初めて1万件を超え、平成28年は減少したものの2年連続で1万件を超えました。

表-7-1

【救急出動件数の推移（過去10年間）】



救急出動件数の多くを占める、急病、交通事故、一般負傷の過去10年の推移は、下表7-2のとおりです。

表-7-2

【急病・交通事故・一般負傷の出動件数（過去10年間）】

区分	急病	交通事故	一般負傷	その他
平成19年	5,458	868	1,399	927
平成20年	4,920	789	1,333	885
平成21年	5,177	751	1,372	849
平成22年	5,689	776	1,551	942
平成23年	5,836	760	1,664	995
平成24年	6,273	821	1,781	1,090
平成25年	6,361	780	1,693	1,146
平成26年	6,324	766	1,743	1,147
平成27年	6,775	817	1,972	1,184
平成28年	6,829	755	1,891	1,154

※ その他とは、火災、労働災害、運動競技、加害、自損行為、転院搬送及びその他の出動件数を示す。

### Ⅲ 救助の概要

#### 1 救助事故種別出動状況

平成28年中の救助出動件数は205件で、前年に比べ22件減少しました。救助活動件数は154件で前年より10件減少し、救助人員は122名で8名減少しました。

事故種別ごとの救助出動件数をみると、自然災害、爆発事故、酸欠事故等による救助事故の発生はありませんでした。近年は、建物等による事故が増加傾向にありましたが、前年に比べ9件減少しました。

表-1-1

#### 【 前年との対比 】

区分		平成28年	平成27年	増 減	増減率%
		(A)	(B)	(A)-(B)=(C)	(C/B)×100
出	動 件 数	205	227	▲ 22	▲ 9.7
活	動 件 数	154	164	▲ 10	▲ 6.1
救	助 人 員	122	130	▲ 8	▲ 6.2
出 動 人 員	救 助 隊 専 任	1637	1417	220	15.5
	救 助 隊 兼 任	119	268	▲ 149	▲ 55.6
	消 防 隊	985	1033	▲ 48	▲ 4.6
	救 急 隊	600	634	▲ 34	▲ 5.4
火 災	建 物	7	2	5	250.0
	建 物 外	0	0	0	0.00
交 通 事 故		20	22	▲ 2	▲ 9.1
水 難 事 故		3	5	▲ 2	▲ 40.0
風 水 害 等 自 然 災 害		0	0	0	0.0
機 械 に よ る 事 故		2	4	▲ 2	▲ 50.0
建 物 等 に よ る 事 故		83	92	▲ 9	▲ 9.8
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故		0	0	0	0.0
爆 発 事 故		0	0	0	0.0
そ の 他 の 事 故		90	102	▲ 12	▲ 11.8
1 カ 月 平 均		17.1	18.9	-1.8	-9.7
発 生 率		9.1	9.7	-0.6	-6.2

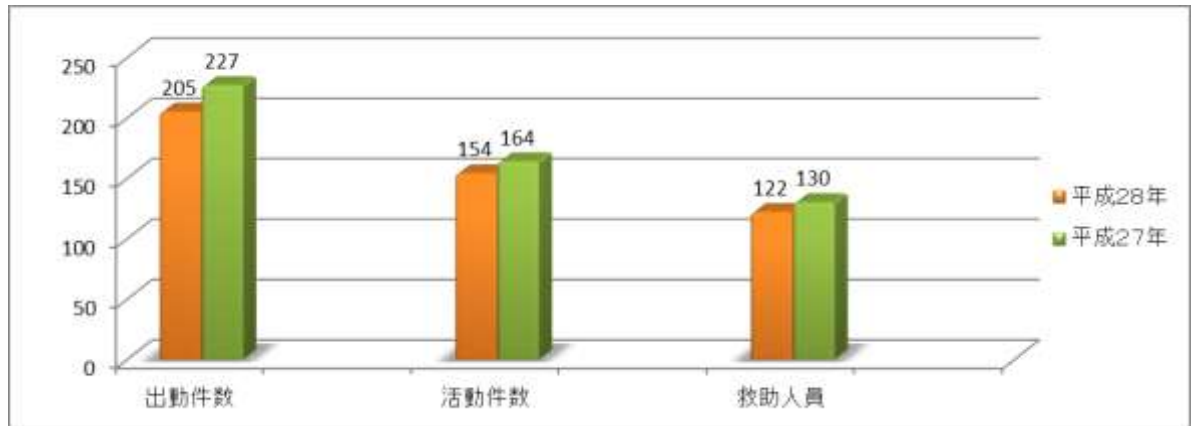
※ 発生率については、人口1万人当たりとする。(平成28年12月・宝塚市推計人口225,267人)

※ 単位未満四捨五入のため、合計等が一致しない場合があります。

※ △は、減少を示す。

表-1-2

【救助出動・活動件数及び救助・救出人員】



2 発生場所別活動件数・救助人員状況

発生場所別活動状況は、住居で発生した救助活動件数114件で全体の74%を占めており、救助人員も80名と全体の約66%となっています。

事故種別では、高齢者の建物内生存者確認等を含めた建物等の事故が年々増加傾向にあります。

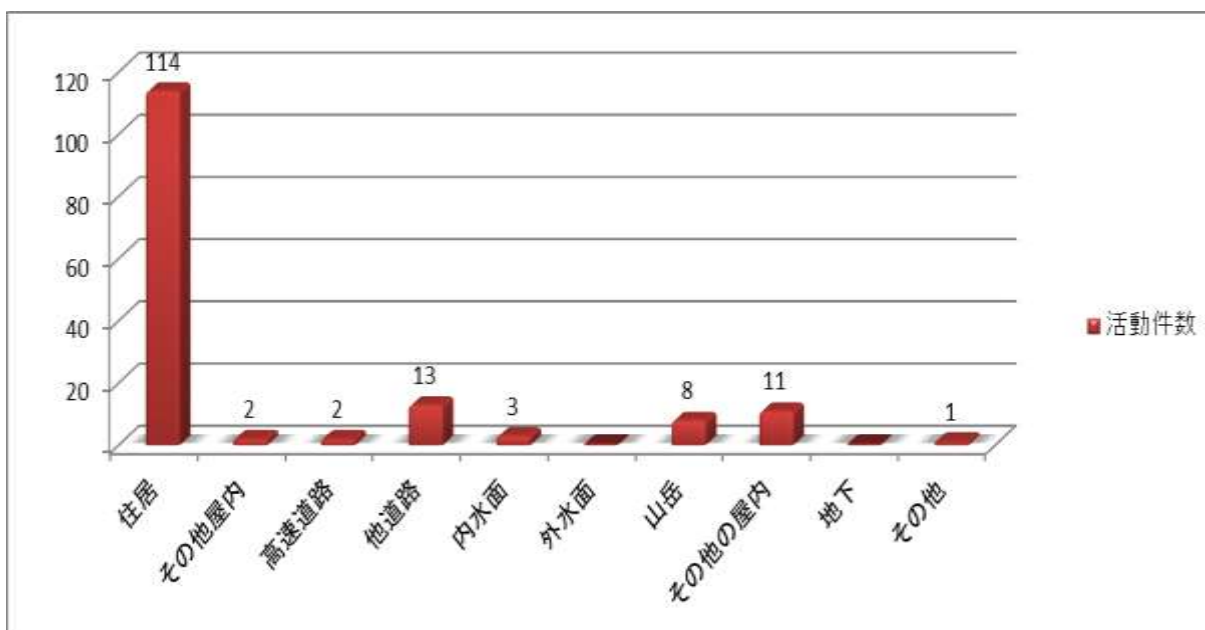
表-2-1

【発生場所別活動件数・救助人員】

区分	活動件数	屋内		屋外						地下	その他
		住居	その他屋内	道路		水面		山岳	その他の屋内		
				高速道路	他道路	内水面	外水面				
救助人員											
火災	建物	7	7								
	建物以外	3	3								
交通事故		14		2	12						
		17		2	15						
水難事故		2				2					
		2				2					
自然災害											
機械による事故		2	1	1							
		2	1	1							
建物等による事故		77	74	1					2		
		77	74	1					2		
ガス及び酸欠事故											
爆発事故											
その他		52	32		1	1		8	9		1
		21	2			1		7	10		1
合計		154	114	2	2	13	3	8	11		1
		122	80	2	2	15	3	7	12		1

表-2-2

【発生場所別活動件数】



3 建物内生存者確認による出動状況

表-3-1

【建物内生存者確認による出動件数】

事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
建物等の事故	5	4	6	5	3	4	2	3	5	6	4	4	51
その他の事故	4	3	4	4	7	4	5	2	1	2	5	5	46
合計	9	7	10	9	10	8	7	5	6	8	9	9	97

※ その他の事故とは、建物内における生存者確認のために出動したが、外出、入院等で不在の場合や、在宅中であるが呼び出しに対し出てくる場合及び睡眠中、いたずら等をいう。

※ 平成28年中の救助出動205件の内、建物内生存者確認による出動は97件で、47%を占めています。

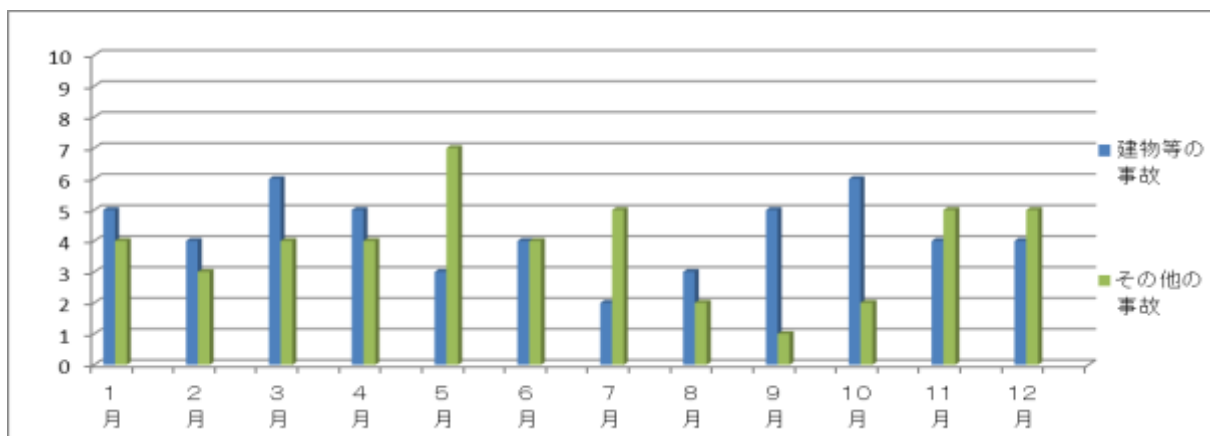


表-3-2

【建物内生存者確認による出動内、高齢者及び後期高齢者の人数】  
（その他の事故は除く）

種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
64歳以下	1	0	1	2	1	2	0	2	1	1	0	2	13
高齢者(65歳以上74歳以下)	0	2	1	0	0	1	0	0	2	2	2	0	10
後期高齢者(75歳以上)	4	2	4	3	2	1	2	1	2	3	2	2	28
合計	5	4	6	5	3	4	2	3	5	6	4	4	51

※ 建物内生存者確認（その他の事故は除く）による出動の内、高齢者及び後期高齢者が占める割合は75%です。

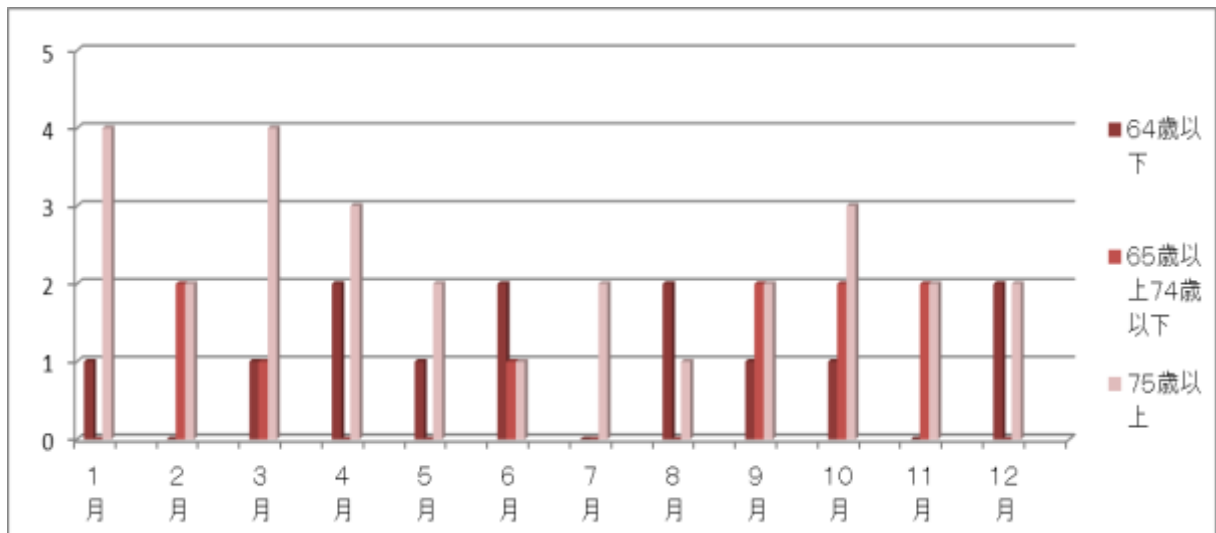


表-3-2

【建物内生存者確認による出動内、高齢者及び後期高齢者の死亡者数】  
（その他の事故は除く）

種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
64歳以下	1	0	1	2	0	2	0	1	1	1	0	0	9
高齢者(65歳以上74歳以下)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
後期高齢者(75歳以上)	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	5
合計	2	2	1	3	1	2	0	2	1	2	1	0	17

※ 建物内生存者確認（その他の事故は除く）による出動の内、高齢者及び後期高齢者が死亡した割合は16%です。







**Takarazuka Fire Dept.**

宝塚市ホームページ <http://www.city.takarazuka.hyogo.jp>